

# 粹な着こなしに「ドキッ」 昨今の着物事情、読者が取材

和文化的の象徴である着物。着る機会こそ減ったものの、50代以上の世代では依然として着物への関心が高いのではないかと。そういらんだReライフプロジェクトは、都内で開催された着物イベントに読者リポーターを派遣。昨今の着物事情を探ってもらった。「和装文化を守り、広めたい……」。そんな熱気に包まれた催しの模様を、2人の読者代表が報告する。

着物に興味がある、主として50代以上の読者会議メンバーに聞いたアンケートでは、着物を持っている人は8割超。所有数は「10枚以上」が41%に達した。一方、普段から着ている人は7%で、「着ていない」人も18%いた。着る機会では「結婚式」（18%）や「正月」（10%）などハレの場を挙げる人が目立つが、着付け教室やお茶会など選択肢以外の具体的な場を挙げた「その他」の人も27%に上り、自分



初日からぎわう「東京キモノショー2018」の会場

りに着物を楽しむ実態も  
浮かび上がった。

## 自分なりに楽しむ

この結果を踏まえ、神奈川県  
の北川りささん(51)  
と、埼玉県の林野均さん  
(64)が向かったのは、5月  
2〜6日に東京・日本橋で  
開かれた「東京キモノショー  
2018」(主催・一般社  
団法人きもの未来協議  
会)。

約1万人が来場した会  
場には、約160体の和装  
のコーディネートが所狭し  
と展示されて圧巻。舞台で  
は舞踏や即興ライブなどが  
繰り広げられた。

北川さんは、自前ので  
やかな紫色の訪問着で参  
加。「辻が花のお着物、す  
てきですね」と、他の来場  
者から声をかけられる場  
面も。大島紬おほしまつに金糸が織り  
込まれたちりめんの半襟  
を合わせた女性らの粋な



華麗な舞いを披露したステージ(きもの未来協議会提供)

着こなしに、刺激を受けた  
様子だった。「抜いた襟のあ  
でやかさや、凜りんとした美  
しさにドキッとしました」  
と、北川さん。

## ハードル下げたい

林野さんは「この機会を  
逃したら一生着物を着るこ  
とはないだろう」と一念発  
起、主催者側が用意した着  
物を身につけて参加した。  
「着崩れることなく、快適  
で気分がいい」と満足そう  
だった。

2人が取材した中野光  
太郎実行委員長は「着物へ  
の憧れはみんなあると思  
う。でも、着慣れないから似  
合わないと思ひ込み、遠ざ  
けているだけでは」と語っ  
た。中野さんの「着物文化  
の発展のため、そのハードル  
を下げたい」との願いに触  
れ、林野さんは「着物文化  
を広げたいとの熱い思いを  
感じた」と話していた。



読者会議を代表して取材する林野均さん(左)と北川りささん